



白山林道のアブラムシ相

富 樫 一 次 石川県農業短期大学

APHID FAUNA OF HAKUSAN FOREST ROAD

Ichiji TOGASHI, *Ishikawa Prefecture College of Agriculture*

はじめに

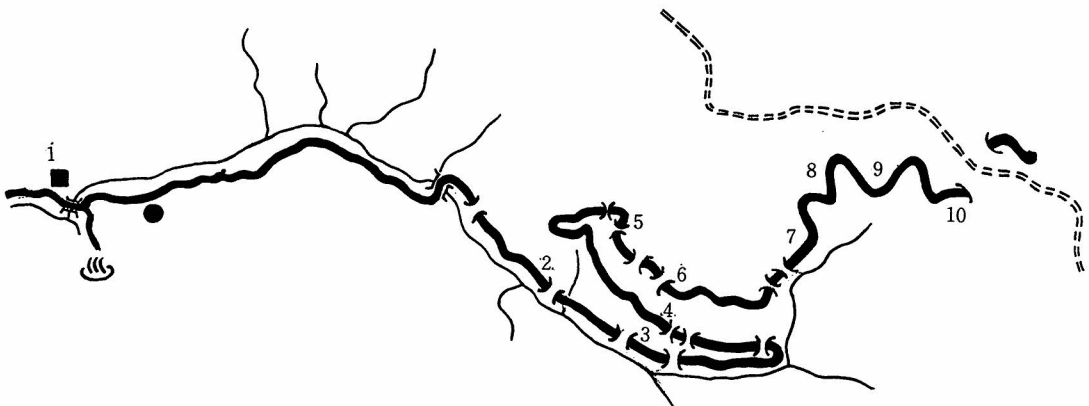
白山林道の開通により、峡谷の山肌は荒れたけれども、法面緑化等の目的で、法面にヨモギの種子の吹付け播種が行なわれた結果、林道沿いの各所にヨモギの群落が形成され、その間にイタドリ、ノビル、ハギ、クマイチゴ、ヤナギ類、ヤマハンノキ、ヨグソミネバリ、ダケカンバ、マルバマンサク、タニウツギ等の植物もみられるようになってきた。

このような植物の生育状態に基づく林道周辺の動物相の変化を知るため、植物に依存して生活している食葉性昆虫、特にハムシ類とアブラムシ類に限定して調査を行った。しかし本報では、比較的調査資料の多かったアブラムシ類について報告する。

本文に入るに先だち、アブラムシ類の同定をして頂き、かつ種々御教示を賜わった皇学館大学の宗林正人教授に深く感謝の意を表す。また、本調査に種々便宜を与えられた白山自然保護センターの職員各位に対し感謝の意を表す。

調査地点と調査法

調査は、林道沿いの任意の地点で行なった（第1図）。しかし料金所から1号トンネル附近までは調査しなかった。



第1図：調査地略図（1～10は調査地点を示す）

■：白山自然保護センター，☁：中宮温泉，●：料金所

各地点では、そこに見られるすべての植物について、アブラムシ類の寄生の有無を調べ、見出されたアブラムシ類はすべて70%アルコールを入れた管瓶中に投入し、研究室に持ち帰った。一方、アブラムシ相を完全に把握するため、飛翔中のアブラムシの採集も行なった。

結果と考察

これまでの調査で採集できたアブラムシ類は、第1表に示す8属25種であった。表中*印を付した種は、林道上を飛翔中の個体であったことを示し、⊗印を付した種は、本来の寄主から移動の途中、他の植物上で休息中に採集されたものであることを示している。

第1表 白山林道で採集されたアブラムシ

<i>Tuberolachnus salignus</i> (Gmelin)		(オノエヤナギ)
* <i>Periphyllus aaliformiensis</i> (Shinji)	モミジニタイケアブラムシ	(カエデ類)
<i>Betacallis alnicolens</i> Matsumura	ハンノキヒゲナガアブラムシ	(ヤマハンノキ)
<i>Symydobiusalniaria</i> (Matsumura)	ハンノチアブラムシ	(ヤマハンノキ)
* <i>Acyrtosiphon pisum</i> (Harris)	エンドウヒゲナガアブラムシ	
<i>Aphis citricola</i> van der Goot	ミカンミドリアブラムシ	(タニウツギ)
<i>Aphis clerodendri</i> Matsumura	クサギアブラムシ	(クサギ)
⊗ <i>Aphis craccivora</i> Koch	マメアブラムシ	
<i>Aphis kurosawai</i> Takahashi		(ヨモギ)
<i>Aphis sanguisorbicola</i> Takahashi	ワレモコウアブラムシ	(ワレモコウ)
* <i>Aulacorthum solani</i> (Kaltenbach)	ジャガイモヒゲナガアブラムシ	
<i>Brachycaudus helichrysi</i> (Kaltenbach)		(ハンゴンソウ)
⊗ <i>Brevicoryne brassicae</i> (Linnaeus)	ダイコンアブラムシ	
<i>Dactynotus picridis</i> (Fabricius)	コウゾリナヒゲナガアブラムシ	(コウゾリナ)
<i>Macrosiphoniella oblonga</i> (Mordvilko)	ヨモギフトオヒメヒゲナガアブラムシ	(宗林新称)(ヨモギ)
<i>Macrosiphoniella yomogicola</i> (Matsumura)	ヨモギヒメヒゲナガアブラムシ	(ヨモギ)
⊗ <i>Neotoxoptera formosana</i> (Takahashi)	ネギアブラムシ	(ノビル)
⊗ <i>Rhopalosiphoninus hydrangeae</i> (Matsumura)	サビタトックリアブラムシ	(ウツギ)
⊗ <i>Rhopalosiphum padi</i> (Linnaeus)	ムギクビレアブラムシ	
⊗ <i>Prociphilus aomoriensis</i> Takahashi	ニシヤワタムシ	
* <i>Clethrobium comes</i> Walker	シラカバオオワタムシ (宗林新称)	(ウダイカンバ?)
<i>Plocamaphis salijaponica</i> Shinji	ヤナギミキアリマキ	(オノエヤナギ)
<i>Uroleucon amamanum</i> Takahashi	アマミヒゲナガアブラムシ	(アキノキリンソウ)
<i>Uroleucon cephalonopti</i> Takahashi	キツネアザミヒゲナガアブラムシ	(フジアザミ)
<i>Uroleucon giganteum</i> (Matsumura)	アザミオオヒゲナガアブラムシ	(ハクサンアザミ)

() 内は寄主植物名

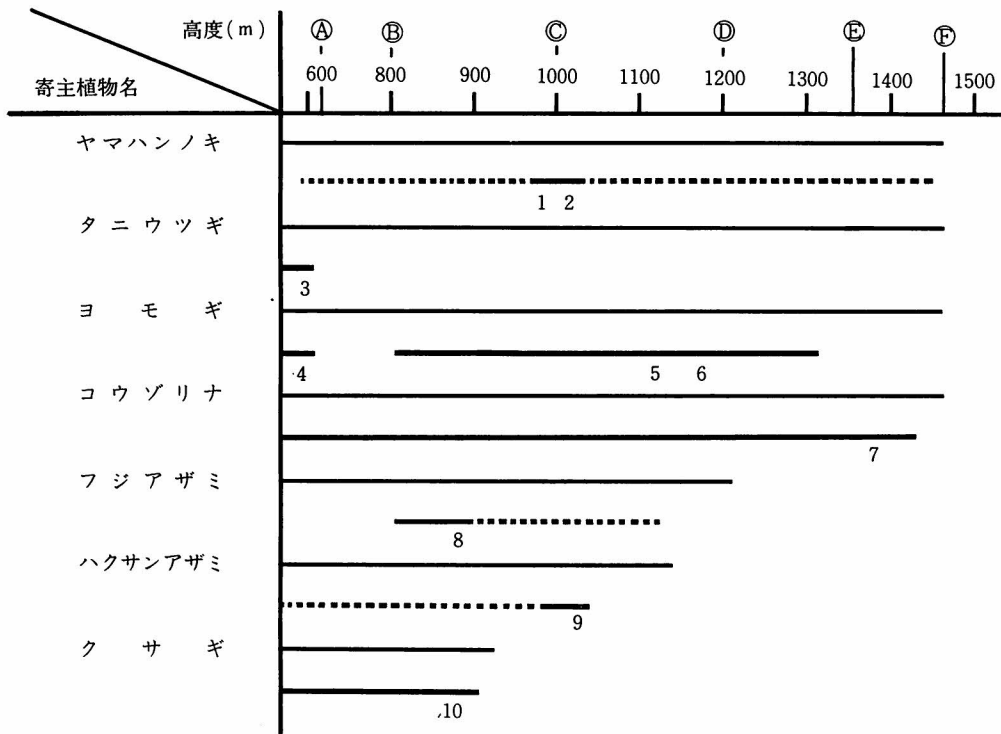
この25種の中で、シラカバオオワタムシ(宗林新称)は、北海道・青森・群馬でシラカンバ、ウダイカンバ、ダケカンバから採集されたもので、本県からは初めて記録されるものであり、かつ白山周辺が、本種の分布上の南限域にあたっていると言ってよいであろう。

2. 寄主との関係よりみたアブラムシ類の分布状況

県境附近の林道上で採集したシラカバオオワタムシやモミジニタイケアブラムシは、いずれも、それぞれの寄主より見出すことはできなかった。しかし、シラカバオオワタムシは、その寄主植物の分布範囲から判断すれば、恐らく県境附近に分布しているものであろうと推察された。

ミカンミドリアブラムシは、白山自然保護センター前のタニウツギから採集されたけれども、林道の各所に生育していたタニウツギに寄生している個体を見出すことはできなかった。オノエヤナギに寄生していた2種のアブラムシも、ミカンミドリアブラムシの場合と同様、林道沿いに生育しているヤナギ類から見出すことはできなかった。

第2図 寄主植物と数種アブラムシの分布範囲



①-⑥：調査地点の海拔高度

①：白山自然保護センター，②：蛇谷荘上，③：5～7号トンネル，④：9号トンネル，⑤：13号トンネル，⑥：県境トンネル

1～10：アブラムシ類の種名

1：ハンノキヒゲナガアブラムシ，2：ハンノキアブラムシ，3：ミカンミドリアブラムシ，

4：Aphis kurosawai，5：ヨモギヒメヒゲナガアブラムシ，6：ヨモギフトオヒメヒゲナガアブラムシ，

7：コウゾリナヒゲナガアブラムシ，8：キツネアザミヒゲナガアブラムシ，9：アザミオオヒゲナガアブラムシ，

10：クサギアブラムシ

同様の現象は、ヨモギに寄生していた *Aphis kurosawai* でも認められた。しかし、林道の法面に生育していたヨモギには、ヨモギヒメヒゲナガアブラムシおよびヨモギフトオヒメヒゲナガアブラムシ（宗林新称）の2種の寄生していることが確認された。この2種のなかでは、前者の分布範囲は後者よりも広がった。

また林道の各所に生育していたコウゾリナには、コウゾリナアブラムシが寄生しており、クサギにはクサギアブラムシの寄生が認められた。

7号トンネル附近のヤマハンノキからは、ハンノチアブラムシおよびハンノキヒゲナガアブラムシを採集したけれども、この2種は、恐らく林道に沿って生育しているヤマハンノキに寄生しているものであろうが、この点については確認はできなかった。

同様の現象は、フジアザミに寄生するキツネアザミヒゲナガアブラムシ、ハクサンアザミに寄生するアザミオオヒゲナガアブラムシでも認められた。

第2図は上に述べた結果を図示したものである。すなわち、林道内で見出された数種のアブラムシ類の分布範囲は、その寄主植物の分布範囲とほぼ一致していた。しかし若干の種では、寄主が分布しているにもかかわらず、或る範囲までの分布しか認められなかった。特にヤナギ類に寄生する2種のアブラムシ、ミカンミドリアブラムシ、*Aphis kurosawai* 等については今後のより詳細な調査が必要であろうと考える。

ここに記録した25種のアブラムシ類のうち、モミジニタイケアブラムシ、シラカバオオワタムシ、ハンノキヒゲナガアブラムシ、ハンノチアブラムシ、サビタトックリアブラムシ、*Uroleucon* 属の各種などは、その寄主植物の分布状況より判断して、本来この峡谷内で生活していたものであろうと推察しているが、林道工事開始前の植生や昆虫相、特にアブラムシ相が不明のためはっきりしない点がある。さらに、ヨモギに寄生していた2種のアブラムシ、ネギアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシなどは、林道開通前からそこに生活していたものかどうかについても、全く推測し得ない状態である。

ただ、マメアブラムシ、ダイコンアブラムシ、ムギクビレアブラムシ、ニシヤワタムシおよびエンドウヒゲナガアブラムシなどは、林道間、すなわち蛇谷荘上よりはじまる調査地点では採集されておらず、白山自然保護センター周辺で採集されたにすぎないが、これらのアブラムシ類が、林道沿いに生育していたハギ類に、または十字花科の植物などに寄生し、その分布範囲を林道内にまで拡大しているかどうかは、今後の調査により明らかにしていきたいものである。

ま と め

1. 本文では、白山林道で採集されたアブラムシ類25種を記録した。25種のうちシラカバオオワタムシは、現在のところ白山地域が分布上の南限域となっている。
2. 数種のアブラムシ類の分布範囲は、その寄主植物の分布範囲とほぼ一致した。しかし中には一致しないものも認められた。

Summary

Twenty-five species of aphids were captured on Hakusan Forest Road. Among them, the distributional range of the following species corresponds to the distribution of their host plants. (See Fig. 2)

Dactynotus picridis (Fabricius) (Host plant is *Picris hieracioides* L. subsp. *japonica* (Thunb.) Krylv.)

Aphis clerodendri Matsumura (Host plant is *Clerodendrum trichotomum* Thunberg)

The distributional ranges of most species, however, are not always in agreement with the distribution of their host plants.